０４／０９／１９　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：感謝と希望をもって生きる
聖書箇所：

つい最近、日本人の平均寿命が発表されました。女性は８５．３３才、男性は７８．３６才と、過去最高を更新していると言います。日本は長寿国です。敬老の日が近付くにつれて、街頭で敬老を受ける人たちがインタビューされているのを見たのですが、そのとき面白い答えが返って来ました。敬老の日はうれしいですかという質問に対して、ほとんどの人がうれしくないと答えるのです。年をとるのはうれしくない、日ごとに体のあちこちが痛み、記憶力が衰え、周りから「すぐに忘れるなあ」と言われ、目はかすみ、歯茎がやせるため歯がうまく噛み合わないとか、確かに肉体的に衰えて行くのは顕著なものです。だから、年をとるのはうれしくないと言われることはよく分かります。若いことがすばらしいのもよく分かります。しかし、私たちクリスチャンの場合は別です。クリスチャンにとっては年老いてゆくことは感謝なことです。たとえ、私たちが死の床にあろうとも、それは私たちにとって感謝なことです。だから、もしクリスチャンが年を重ねる度に感謝が無くなって行くとしたら、それは非常に悲しいことです。イエスのことを知らない人たちと同じように感謝のない日々を過ごしているとしたら、それはとても悲しいことです。なぜなら、神は**「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」**（Ｉテサロニケ５：１８）と言われました。神は私たちがすべての事について感謝することを望んでおられるし、それを私たちに期待しておられるのです。しかし、現実にすべてのことを神に感謝するというのは難しいことです。なぜ、難しいのでしょう？なぜ、私たちはすべてのことに感謝できないのでしょう？結論から言いますと、その原因は罪なのです。罪が邪魔するのです。私たちは生まれながらに自分が一番でなければならないのです。自分の思い通りに物事が進まなければならない、そうでなければ納得しないし受け入れられないのです。また、自分の欲しいものを手に入れるまで私たちは満足しないのです。それに代わるものでは満足できないのです。自分が一番でなければならない、自分が認められたり人々から誉められることを常に望んでいるのです。ある人々は自分を愛するがゆえに、自分自身を神よりも高い位置に置いています。なぜなら、本来人間は神によって造られたゆえに、神に従うべきなのに、私たちが神に自分の願い事をかなえさせて、私たちの思い通りに神が私たちの人生を導くようにと指図するような、そのような歩みを私たちはしてしまいがちだからです。神は預言者エゼキエルを通してツロの王様に警告するのです。エゼキエル書２８：２**「人の子よ。ツロの君主に言え。神である主はこう仰せられる。あなたは心高ぶり、『私は神だ。海の真中で神の座に着いている。』と言った。あなたは自分の心を神のようにみなしたが、あなたは人であって、神ではない。」**、あなたは自分を神としているけれど、神ではないと神は言われると。それほど人間は高慢であり、プライドに満ち溢れているのです。すべてのことがうまくいっていると、それは自分が成し遂げたと思って私たちは自分を奢る者です。この罪が問題なのです。この罪が私たちをすべてのことに感謝できない者へとしてしまっているのです。聖書の中からいくつかの人物を見て行きましょう。

●創世記４：３－８　カイン

カインはアダムとエバの間に生まれた子でした。**「ある時期になって、カインは、地の作物から主へのささげ物を持って来た。:4 また、アベルは彼の羊の初子の中から、それも最良のものを、それも自分自身で、持って来た。主は、アベルとそのささげ物とに目を留められた。:5 だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。」**、カインの中に何が起こったのでしょう？カインは当然自分のささげ物が神に認められると思っていました。ところが神はそれを喜ばれなかった、それだけではない、神は弟のささげ物には目を留められたのです。このようなときに、人はひがみを覚えるでしょう。ねたみを抱くこともあります。カインの場合はねたみを抱いたのです。そして、そのねたみが恨みや怒りを彼のうちに生み出して行きました。このときカインの心の中に神への感謝の思いがあったでしょうか？ありません。彼は自分のささげ物より弟のささげ物が神に受け入れられ喜ばれたのを見て感謝や喜びがなくなったのです。かえって怒りが彼の心を支配したのです。そして、その怒りをすぐに清算しなかったために、自分の弟を殺してしまったのです。**「:6 そこで、主は、カインに仰せられた。「なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。:7 あなたが正しく行なったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行なっていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」:8 しかし、カインは弟アベルに話しかけた。「野に行こうではないか。」そして、ふたりが野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した。」**

●Ｉサムエル１８：６－９　サウル王

「ダビデがあのペリシテ人を打って帰って来たとき、みなが戻ったが、女たちはイスラエルのすべての町々から

出て来て、タンバリン、喜びの歌、三弦の琴をもって、歌い、喜び踊りながら、サウル王を迎えた。:7 女たちは、笑いながら、くり返してこう歌った。「サウルは千を打ち、ダビデは万を打った。」:8 サウルは、このことばを聞いて、非常に怒り、不満に思って言った。「ダビデには万を当て、私には千を当てた。彼にないのは王位だけだ。」:9 その日以来、サウルはダビデを疑いの目で見るようになった。」、サウル王はダビデが自分よりも認められたとき、ねたみを抱いたのです。ダビデの評価が上がることに対して、ダビデが自分以上に武勇を上げることに対してそれを喜ぶことができなかったのです。そして、その後サウルはダビデのいのちを狙うのです。**「サウルは千を打ち、ダビデは万を打った。」**とその歌を聞いたときサウルの心に喜び、感謝があったでしょうか？もちろんそのようなものはなかったのです。つまり、自分が王であるから自分が一番認められるべきであり、自分が一番人々から賞賛を受けるにふさわしいと彼は自負しているのです。ところがそうでなかったときに、彼は怒りを覚えるのです。

●民数記２４：１０－１１　バラク

モアブの王バラクはイスラエルが非常な力をもってさまざまな国々を征服しているのを見て、恐れを抱き、占い師のバラムを呼びます。バラムにイスラエルを呪ってもらいたいと思ったのです。このときの記事が民数記２４章に出てきます。この占い師のバラムはイスラエルの神を信じていたわけではありません。しかし、彼はイスラエルの神に聞いてみようと問いかけるのです。神が答えたことは「このイスラエルの民はわたしが祝した民である。呪ってはならない。」ということでした。そこでバラムは呪う代わりにイスラエルを祝福するのです。**「:10そこでバラクはバラムに対して怒りを燃やし、手を打ち鳴らした。バラクはバラムに言った。「私の敵をのろうためにあなたを招いたのに、かえってあなたは三度までも彼らを祝福した。:11 今、あなたは自分のところに下がれ。私はあなたを手厚くもてなすつもりでいたが、主がもう、そのもてなしを拒まれたのだ。」**、バラクもまた自分が一番でありたい、誰よりも認められたいと願い、それがかなわないとき怒りを燃やすのです。このバラクはバラムが自分の思い通りのことをしてくれると期待したのです。ところがそのようにしなかったので怒りました。私たちも同じです。自分よりも人が誉められると私たちは余り面白くないのです。人々が自分の思い通りに動いてくれなければ、それを感謝することができません。かえって心が苛立ったり、憤りを覚え、それが怒りへと発展したりするのです。

では、なぜ私たちは感謝できないのでしょう？神ではなく自分を見ているからです。そのことを今から見て行きましょう。その前に、詩篇の著者がこのように言います。**「怒ることをやめ、憤りを捨てよ。腹を立てるな。それはただ悪への道だ。」**と詩篇３７：８です。怒りがこみ上げてくる時、憤りがこみ上げてくる時、どうすればいいのでしょう？神を見上げることです。そして、感謝することです。「すべてのことに感謝しなさい」という命令を私たちは罪ゆえになかなか実践できないことを見たのですが、神が言われることは不可能ではありません。どうすれば実践することができるのでしょう？そのことをみことばは私たちに教えてくれるのです。

☆どうすれば、すべてのことに感謝をもって生きて行くことができるのか

１．<u>神のことをしっかり覚える</u>

私たちが自分の神がどんなにすごい方かを覚えること、そのときそれが可能になるのです。実は、そのように感謝できない状況で感謝した人物が、聖書の中にいっぱい出てきます。その中の何人かを紹介します。神のことを知っていたゆえに苦難を乗り越えた人たちです。

●ダニエル３：１６－１８　ダニエルと友人たち

ネブカデネザル王が金の像を造りこの像を拝めと言います。そのとき彼らはこのように言います。**「:16 シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴはネブカデネザル王に言った。「私たちはこのことについて、あなたにお答えする必要はありません。:17 もし、そうなれば、私たちの仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ。神は私たちをあなたの手から救い出します。:18 しかし、もしそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々に仕えず、あなたが立てた金の像を拝むこともしません。」**、王様の金の像を崇拝せよという法令が発令されました。神でないものを拝めというのです。そのときに、シャデラク、メシャク、アベデネゴの三人は感動的なことを証するのです。彼らがここで宣言したことは私たちを奮い立たせます。「私たちはどんなことがあっても神に逆らうことはしません、たとえ私たちが燃える炉の中に投げ込まれるとしても。」と言います。彼らは自分たちの信じている神がどんなお方であるかということをよく知っていたことを、このみことばは私たちに教えてくれるのです。彼らは自分たちの神が全能のお方であることを知っていました。だから、１７節**「もし、そうなれば、私たちの仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ。神は私たちをあなたの手から救い出します。」**と言い切るのです。あり得ない話です。火の中に飛び込んで無傷でいるなんて…。でも、彼らははっきりそう断言するのです。神がたとえ火の中にあっても私たちが生きることを望まれるなら、神は私たちをそこから救い出すことができる、このような神を私たちは信じているというのが彼らの宣言だったのです。彼らは、神が全能のお方であることを信じていましたし、「神のみこころは最善である」ということを

彼らは告白するのです。１８節に**「もしそうでなくても」**とあります。神がそこで私たちを救うことをしないで死ぬことをよしとされるなら、つまり、炉の中から救い出されようと死のうとどちらであっても構わない、なぜなら、神のみこころは最善であり、そのみこころを求めていることを彼らは告白しているのです。ものすごい信仰ではないですか！何も問題がないときにこのように言ったのではありません。まさに、自分たちが死に直面しているときです。私の選択は決まっている、全能の主に従うことだと言うのです。

●ローマ４：１９－２１　アブラハム

「アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだが死んだも同然であることと、サラの胎の死んでいることとを認めても、その信仰は弱りませんでした。:20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、:21 神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。」、信仰の勇者アブラハムも、彼の信じている神がどんなお方かをよく理解していました。彼が言うことは「私の神は真実なお方、約束されたことは絶対に守る」とそのような確信をもっているのです。人間的に見て年老いている私が子どもを生むことなど無理なこと、でも、神が与えるといわれたのだから与えられると信じたのです。神がいわれたことは必ずそうなるという信仰でした。そして、神が全能であることも知っていました。**「神には約束されたことを成就する力がある」**と言っています。だから、決して疑うことをしないで神に信頼を置いて神を見上げたのです。

●ヘブル１１：１１－１２　サラ

「信仰によって、サラも、すでにその年を過ぎた身であるのに、子を宿す力を与えられました。彼女は約束してくださった方を真実な方と考えたからです。:12 そこで、ひとりの、しかも死んだも同様のアブラハムから、天に星のように、また海べの数えきれない砂のように数多い子孫が生まれたのです。」、サラもまただれが見ても不可能と思えることを見たとき神を信頼したのです。彼女も神は真実なお方、約束を守られるお方であることを信じていたのです。

このように三人を見て共通していることは、彼らは自分の神のことをよく知っていたのです。疑う代わりに神を信頼したのです。今この時代にあって神が求めておられる信仰者はどのような信仰者なのでしょう？神は私たちにどのようなことを期待しておられるのでしょう？それはこの信仰の勇者たちがそうであったように、神のおことばを信じて揺るがない信頼をもつ、神がいわれたことは必ずそうなると信じる、そのような信仰者です。

マリヤがまだ身重のときに、エリザベツを訪問しました。そのとき、聖霊に満たされたエリザベツはこのようなことを言いました。

●ルカ１：４５　エリザベツ

「主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう。」、神がいわれたことはかならずそうなると、それを信じる人はどんなに幸いな人かと。あなたはどうでしょう？神がいわれたことに対して、はい信じますという信仰者なのか、それとも、神さまそれは無理です、例外がありますというような信仰者でしょうか？人間的に見て、それがどう見ても可能だと思えないこと、絶対に無理だと思えても神を信頼するような人、そのような信仰者を神は望んでおられるのです。クリスチャンと言うのは、神を知らずに年老いて行く人々とは違うのです。年齢を見て、私には何もできないとか、私には無理であるとは思わないのです。自分の健康を見て、私には無理、もう少し元気になればやれると、そのようには思わないのです。神が喜んでくださる信仰者というのは、そのような条件をつけないで、神がやれといわれたら喜んでやると、神の前に自らをささげる者です。自分をみて不可能だと思っても、全能なる神が用いるといわれているから神よ使ってくださいと、自らをささげるのです。そのような信仰者を神は求めておられるし、そのような信仰者を神は祝してくださるのです。私たちが自らに問いかけなければならないことは、私がそのような信仰者かどうかです。

もうひとり紹介したいのはヨセフという人物です。

●創世記４５：３－８　ヨセフ

彼の生涯は辛いことがいっぱいありました。彼の兄弟は彼を銀２０枚でイシュマエル人に売ってしまいました。親元から引き離されてどれほど辛かったことでしょう。しかし、エジプトに行ったヨセフはパロの侍従長ポティファルに一生懸命仕えます。神は祝してくださって大切な責任が任されます。しかし、ポティファルの妻が誘惑しそこからヨセフは身を守ったのです。神の前に正しいことをしたにもかかわらず、彼は無実の罪で投獄されてしまうのです。彼は神に不満を言ったでしょうか？もちろん、ヨセフは私たちと同じように完璧ではありませんでした。しかし、ヨセフの生き方を見たとき、このような中でも神を見上げて神に忠実に生きた人物であることは明らかです。牢屋の中にいるヨセフのところに神はふたりの人物を送ってくれました。王の献酌官と調理官です。ヨセフは彼らの夢を解き明かしました。その夢の解き明かしどおりに献酌官は自由になりましたが、そのときヨセフは言います。「私は

無実でここにいるのですから、私を釈放するようにパロに言ってください」と。しかし、その後２年間も牢にいることになるのです。一体私がどんな悪いことをしたというのでしょう？と考えても不思議でない状況に彼はいたのです。しかし、そのヨセフがこのようなことを証しています。ヨセフの兄弟たちが彼のもとにやって来ます。そのとき彼は自分が兄弟のヨセフであることを明らかにするのです。兄弟たちはヨセフを前にして驚きのあまり答えることができなかった、ヨセフは兄弟たちにこのように言います。**「:3ヨセフは兄弟たちに言った。「私はヨセフです。父上はお元気ですか。」兄弟たちはヨセフを前にして驚きのあまり、答えることができなかった。:4 ヨセフは兄弟たちに言った。「どうか私に近寄ってください。」彼らが近寄ると、ヨセフは言った。「私はあなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです。:5 今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださったのです。:6 この二年の間、国中にききんがあったが、まだあと五年は耕すことも刈り入れることもないでしょう。:7 それで神は私をあなたがたより先にお遣わしになりました。それは、あなたがたのために残りの者をこの地に残し、また、大いなる救いによってあなたがたを生きながらえさせるためだったのです。:8 だから、今、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです。神は私をパロには父とし、その全家の主とし、またエジプト全土の統治者とされたのです。」**。つまり、このヨセフのことばを聞くと、彼が厳しい状況の中で彼から神への感謝も喜びも奪ってゆくような中でも、彼が背後にいる神を見上げたことが分かります。神に期待を置いたのです。神がどのようなお方かを知ったとき、この方に信頼をもち、その信頼によって希望をもって生きて行くのです。

これらの人々を見たとき、私たちはどうすれば私自身がすべてのことに感謝できるのか、いつも希望を持って生きて行けるのか、その質問の答えを見ることができます。彼らはそのような生き方をしてきました。それは、彼らが自分の問題ではなく、自分の神がどのような神かを見たのです。信仰の先輩たちは主を讃え続けました。それは、彼らが主のすばらしいみわざを良く知っていたからです。

詩篇９２：１**「主に感謝するのは、良いことです。いと高き方よ。あなたの御名にほめ歌を歌うことは。」**

１０９：３０**「私は、この口をもって、大いに主に感謝します。私は多くの人々の真中で、賛美します。」**

１０７篇では、主のなさったすばらしいみわざのゆえに、奇しいみわざのゆえに、私たちは神を讃えるのだと歌っています。**「:8彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ。:15 彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ。:21 彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ。:31 彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ。」**

また、１１９篇では、主はすばらしい正しい審判者である、だから、私は主を讃えるのだとあります。

１１９：６２**「真夜中に、私は起きて、あなたの正しいさばきについて感謝します。」**

１３６篇では、そのご恩寵のゆえに、神の恵みあるすばらしいみわざゆえに、私たちはその方を讃え続けるとあります。１３６：１**「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。」**

新約聖書を見ても、神が与えてくださったその賜物ゆえに神に感謝すると。そのようなことばで、聖書のみことばはあふれています。ですから、今私たちが置かれているその環境で、その状況で、私たちに神への感謝がなければどうすればいいのか、神を見なければいけないのです。私の神がどのような神なのかをしっかり覚えなければならない、そのために私たちは過去を見て、どのようなすばらしいみわざを神はなさったのか、そのことをしっかり覚えることです。このようなことをヘブル人への手紙の著者は言いました。ヘブル１２：１**「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。」**、著者は証人たちがいると言います。私たちの前に信仰の歩みを歩み続けた人々がいると言います。彼らを神がどのように扱われたのか、どのように祝されたのかをしっかり覚えようと言うのです。そして、それに倣って私たちも信仰の歩みを歩み続けて行こうと言います。過去の信仰の勇者たちのことを覚えるときに、私たちは希望と励ましとをいただきます。それは、パウロがローマ書の中で言うように、ローマ１５：４**「昔書かれたものは、すべて私たちを教えるために書かれたのです。それは、聖書の与える忍耐と励ましによって、希望を持たせるためなのです。」**、このとおりです。なぜ聖書がこのように分厚いのか、私たちがこれを読むとき、神がどういうお方かを深く知るからです。神がどのように人々を扱われていたのか、どのようなみわざをなされたのか、つまり、この聖書は私たちに私たちの神がどれほど偉大であるかということを教えるのです。そして、それを見たとき、今の私たちが問題の中にあっても、いろいろな悲しみ苦しみの中にあっても、そこで忍耐と励ましを得るのです。そのために神はこの聖書を与えてくださったのです。だから、私たちは様々な問題に遭遇したとき、この聖書から神の偉大さを教えられるのです。そのときに、希望が見えない中にあっても確かに希望をもつのです。喜べない状況にあっても喜べるのです。

私たちにとって大切なことは、神はほんとうに私にとって何が最善かをご存じだろうか、神はほんとうに私に最善をなされるのだろうかということを確かめることではないのです。最善を知り、最善をな

される神に信頼を置くかどうかが大切なのです。神は変わっておられません。そして、神が多いに用いた人々、すべてのことに感謝できた人物というのは、この神に信頼を置いたのです。そして、神は彼らのうちに感謝を与えたのです。そのことを考えると、私たちがどんなときにも、すべてのことに感謝をささげるというのは、実は私たちの信頼の証なのです。確かに私の考えていたこととは違います、でも、あなただけが神であり、あなただけが最善を知っておられる方であり、あなただけが最善をなされるお方だから、私はあなたに信頼しあなたを信じますと言うのです。そのような信仰なのです。感謝できないことが起こるときには神を見上げてください。神はいわれました、あなたにとって益となることをする、あなたにとって最善をなし続けると。もうそのおことばで十分です。問題はそのおことばを疑って「本当かな？」と探ることではなく、分かりました神様、あなたを信じます、だから、この光りが見えないような状況にあっても、導いてくださるあなたを心からほめたたえて感謝します、です。そのとき、私たちのうちは変わってくるのです。

もう一つ、私たちには神の助けがいるということです。私たちが感謝して生きようとするとき、私たちがしてしまうことは、私は頑張って行きますということです。しかし、私たちがどのように頑張っても、どんなに意志の力に頼っても無理だと分かっています。神の助けがいるのです。パウロがエペソ人への手紙５章を教えるとき、聖霊に満たされるようにとクリスチャンに勧めをなします。なぜなら、聖霊に満たされて行くときに、神は私たちのうちに働きをなしてくださるのです。どんな働きでしょう？私たちのうちに喜びがあふれるようにしてくださる、私たちのうちに感謝があふれるようにしてくださるのです。つまり、喜びも感謝も神が私たちに与えてくださるものです。神が私たちを支配するなら、言い方を変えるなら、私たちが自分の思い、自分の考え、自分の夢に従って生きて行こうではなくて、神に従って生きて行こうとするなら、そして、私の考えも思いもことばも心のすべてを神に支配し続けていただこうと神に委ねて行くなら、神が働いて結果として喜び、感謝を私たちに与えてくださるのです。このような信仰の勇者たちが感謝し喜んだのは、彼らが神とともに歩んだからです。確かに、今の世の中にあって、年老いていくことを喜んでいますか？と聞かれて、ほとんどの人は喜ばないと言います。なぜなら、一日一日死に近付いて行くからです。そのような人々が満ち溢れた社会だからこそ、私たちクリスチャンはその中にあってしっかり神に感謝し、神が与えてくださる希望をもって生きて行くことが必要なのです。私たちは人々に語らなければいけないのです。希望が与えられることを。イエス・キリストこそが希望なのです。ここに救いがあること、希望があることを私たちはどのように語って行くのか、それはまずあなたが希望をもって生きて行くことです。主を見上げることです。どのように偉大な神かを覚えることです。そして、この方のいわれたことに信頼を置くことです。私たちを助けてくださる主に助けをいただきながら今日を生きて行くことです。そうするなら、主はあなたを用いてくださるから、この世の人々に私たちは出て行って神のメッセージを語って行きましょう。キリストに罪の赦しがあることを、キリストによって私たちに本当の祝福が与えられることを。そのために私たちはしっかりこの神を覚えなければなりません。この１週間、それぞれ遣わされたところで感謝と希望をもって生きてください。